

アジア文化論 II : 東南アジア古典文化論 ver2.2

アンコール王朝

- ・ アンコール : *angkor < nagara* (都)
- ・ クメール人の王朝の首都、トンレサップ湖の北岸
- ・ 恵まれた自然環境による高い食糧生産力
- ・ デーヴァ・ラージャ (神=王) 思想による強力な王権
- ・ メコン河流域を拠点にしたタイ湾をめぐる交通の支配
- ・ 9世紀初頭から15世紀中頃まで。ジャヤヴァルマン7世治世に最盛期

《アンコール期以前》

■ 600年頃-800年頃 真臘 (Chenla) 王国

- ・ ヒンドゥー教、とくにシヴァ神信仰、リング崇拝。土着の信仰と接合
- ・ サンスクリット、南方ブラーフミー系文字による記録
- ・ メコン川デルタ地域は一時ジャワの勢力下だったと推定される (シャイレンドラ王朝?)

《アンコール期》

■ 802年 ジャヤヴァルマン2世「世界の王」宣言

- ・ ジャワの支配から独立、クメール王国の再統一
- ・ デーヴァ・ラージャ (*devarāja*) 儀礼
- ・ 王はシヴァ神と同一視され、リング (*linga*) によって象徴される

■ スールヤヴァルマン2世 (1113-45年) : アンコール・ワットの建設

- ・ アンコール・ワット : *Angkor Wat* (王都+寺院)
- ・ ヒンドゥー教寺院として建立、ヴィシュヌ信仰、一辺 1.3km×1.4km
- ・ 『マハーバーラタ』『ラーマーヤナ』の浮き彫りなど
- ・ その後、16世紀に仏教寺院に改修、本堂のヴィシュヌ神像が仏像に置換される
- ・ 1632年、日本人森本右近太夫一房が参拝 (祇園精舎と勘違い)

■ ジャヤヴァルマン7世 (1181-1201年) : アンコール・トムの建設

- ・ アンコール・トム : *Angkor Thom* (王都+大きい)
- ・ ジャヤヴァルマン7世は大乗仏教を信奉、自らを観世音菩薩に描く
- ・ 一辺 3kmの堀と高さ 8mの城壁に囲まれた方形の敷地
- ・ 中心にバイヨン寺院 (トンレサップ湖でのチャンパーとの水上戦を描く)
- ・ 王の死後、仏教からヒンドゥー教へ回帰 (仏像の破壊の痕跡)

■ 1296年 中国元朝の使節の来訪 周達観『真臘風土記』

- ・ 上座仏教とヒンドゥー教 (シヴァ神への信仰) が共存
- ・ 14世紀後半以降、タイ人の王国が攻勢

■ 1432年 タイ人のアユタヤ朝、アンコールを攻略

- ・ クメールの王都はプノンペンに移動 (以後、カンボジアとして知られる)
- ・ アンコールの文物をアユタヤに移送 (アプサラ舞踊も)
- ・ 古典的インド文化はアンコールを経由してアユタヤ王朝に受容される。
- ・ 『ラーマーヤナ』はクメールの『ラーマキルティ』を経てタイの『ラーマキエン』に
- ・ バラモン僧による王の即位儀礼

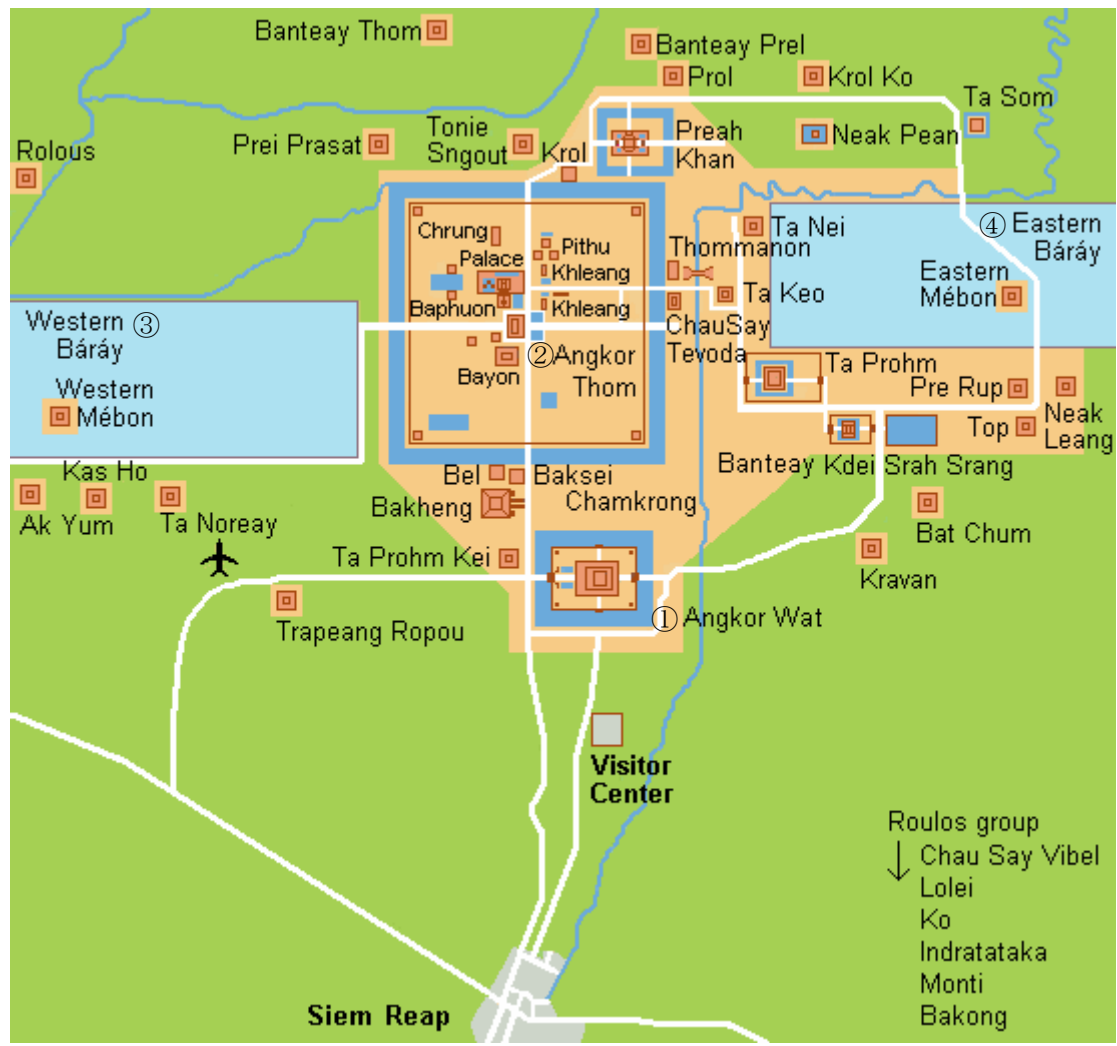
参考文献

石澤良昭『東南アジア 多文明世界の発見』(興亡の世界史 11) 講談社. 2009.

周達観・著、和田久徳・訳注『真臘風土記 アンコール期のカンボジア』(東洋文庫) 平凡社. 1989.



図1 (左) カンボジア  
 図2 (下) アンコール全体  
 ① アンコールワット (寺院)  
 ② アンコールトム (王都)  
 ③ 西バライ (人工池)  
 ④ 東バライ



アンコール・ワット：angkor < nagara (都)

12 世紀前半、スールヤヴァルマン 2 世の建立。ヒンドゥー教の寺院。

1. 環濠：東西 1500 メートル、南北 1300 メートル、幅 200 メートル。
2. 参道：西から進入。石橋で環濠を渡る。欄干はかつて「乳海攪拌」の場面を描く。
3. 周壁：東西 1030 メートル、南北 840 メートル。
4. 西大門：南北 230 メートル。三塔形式。中央に王の門、左右に二つの門。南北には階段が無い象門が二つ。
5. 前庭：中心に参道。その南北にそれぞれ経蔵と聖池。
6. 参道：前庭中央を西から東へ直進。ナーガ（大蛇）の欄干をもつ。
7. 内苑：三重の回廊、中央に祠堂
8. 第一回廊：東西 200 メートル、南北 180 メートル。
  - 西面南：マハーバーラタの場面。左から攻めるパーンダヴァ族と右から攻めるカウラヴァ族の軍。
  - 西面北：ラーマヤナ場面。とくにラーマ王子たちがランカー島で魔王ラーヴナと戦う場面。王子の顔は建立者スールヤヴァルマン 2 世の似姿。
  - 南面西：「歴史回廊」。行幸するスールヤヴァルマン 2 世とそれに従う王師、大臣、将軍、兵士など。
  - 南面東：「天国と地獄」。上段に天国、中段に閻魔大王らと裁きを待つ人々、下段に地獄を描く。
  - 東面南：「乳海攪拌」。神々と阿修羅らが大蛇ヴァースキを引っ張り合って、マンダラ山を回して海を攪拌。
  - 東面北および北面：後の 16 世紀頃に増補。クリシュナと怪物バーナとの戦い。
9. プリヤポアン（千体仏の回廊）：第一回廊と第二回廊の間を結ぶ十字回廊。南北に経蔵。森本右近太夫一房の墨書。
10. 第二回廊：第一回廊から 17 段の石段を登る。東西 115 メートル、南北 100 メートル。17 段の石段。石畳の中庭に第三回廊と祠堂がそびえる。第二回廊の四隅には祠堂（プラサート）。
11. 第三回廊：高さ 13 メートルの急勾配の石段を登る。一辺 60 メートル。四隅と中央に須弥山を模した祠堂。第三回廊に囲まれて田の字型に四つの中庭。
12. 中央祠堂：高さ 65 メートル。かつてヴィシュヌ神を祀る。現在は、四体の仏像。各所にアプサラスまたは女神（デーヴァター）の像。

